

絶句 (両箇の黄鸝)

杜

甫

両箇の黄鸝翠柳に鳴き

一行の白鷺青天に上る

窓に含む西嶺千秋の雪

門に泊す東吳万里の船

【作者】杜甫(七一二〜七七〇年)・中国盛唐の詩人。字は子美。号は少陵野老、別号は杜陵野老、または杜陵布衣。杜少陵「杜工部」とも呼ばれる。律詩の表現を大成させた。李白と並ぶ中国文学史上最高の詩人として、李白の「詩仙」に対して、「詩聖」と呼ばれている。また晩唐期の詩人・杜牧の「小杜」に対し「老杜」と呼ばれることもある。

【語釈】*両箇…二つ。二羽。*黄鸝…朝鮮ういす。高麗ういす。日本のより大きい。*翠柳…みどりの柳。*一行…一列。

*白鷺…しらぎ。*窓含む…窓わくの中に絵をはめ込んだように、はつきりと見えることの表現。*西嶺…西方の山々。

*千秋雪…万年雪。*門…杜甫の草堂の門前。*東吳…東方の呉の地方。現在の江蘇省南部。*万里船…万里も離れた呉の地の船。

【通釈】2羽のういすが、緑色に茂った柳でさえずり、一列になった白さぎの群れが青空を飛んで行く。窓からは西嶺(西都の西にある雪山)に降り積もった万年雪がまるで、額縁にでもはめこんだように眺められ門の前の船泊りでは、東の国呉から来た船が停泊している。